

## 月曜礼拝の法話

### 『人間は不老長寿だなあ～ほかの生き物より～』

梅雨の季節になりました。草がたくさん芽を出して大きくなっています。冬の間は見なかったカエルや虫も出てきました。

草の気分になってみましょう。

5月に自分が草として生まれてきたとき（芽を出した時）、すでに人間であるみんなはいました。6月になると草は水を飲んで、栄養分をとって、成長します。大きくなって花が咲きました。一方、生まれたときにいた人間であるみんなはほとんど見かけはわかりません。この先、暑い夏が来て、涼しくなってくるころには草である自分は枯れて、死んでいきます。でも人間であるみんなはきっとおじいさん、おばあさんにはなっていないでしょう。草である自分からみたら、人間であるみんなはほとんど変わらないままなのに、自分は生まれてきて大きくなって花を咲かせて、そして枯れて死んでいきます。

みんなはこれからチョウやカマキリ、クワガタなどを捕まえるかもしれませんね。トカゲやカエルを捕まえていたお友達もいました。みんなからしたら、すぐに死んでしまう生き物ですよね。その出会いは、すぐに終わってしまうものかもしれません。

草や虫からしたら、自分の一生のうちの大部分を見ているのですから、人間はずっと長生きに見えることだと思います。見方を変えると、不思議な世界が見えます。私の見ていることが絶対正しいわけではないかもしれませんね。